

世の中で分かり易いことと、良いことに向かったの英断を聞くと何かスッキリした気分になる。

●サントリーが限定品で一本百万円のウイスキー「50年もの」を売り出したら一日で売り切れたそうである。酒屋などで注文を受け付けるとホームページで告知したら、限定数の五十本があつと言う間に完売。世の中には金持ちが居る、私にはこの英断は不可である。

●城島が大リーグの私の好きなマリナーズに入団した。長谷川は昨年で引退したが、元氣一杯のイチローと頭脳野球、強力な打撃ペアで大いに活躍して欲しいと思う。現地でも期待が大きいようだがこの二人が今年こそ何か話題を作るような予感がする。

●1917年創業のニコンがフィルムカメラから撤退する。2004年度のカメラ事業売り上げでフィルムカメラの割合は三%。九十年に及ぶ歴史の終焉である。デジタルカメラは将来どうなるのだろう。

●政界では数年前から前原氏が好きで注目していた。松下政経塾出身ということも関係あるかもしれない。論理的で分かりやすく説得力があると思う。しかし、相変わらず野党第一党は何となく不安定。前原氏曰く「内政、外交安全保障について党内のビジョンをまとめきれない時は、秋の代表戦に立候補しない」これは自分の公約に対し退路を絶って臨む表明であり、分かり易い英断である。

●松下温風機の問題では全国六十二紙に広告を出し、テレビ・ラジオで二万回CMを流したが六万台ほどがどうしても改修できない状況らしい。私もアラブやタイで通信機器の改修に関わったが、一度世の中に出荷されたものは思うようにならないのが現実である。

●松下は最後の一台まで見つけるつもりで、全国全ての世帯と宿泊施設の六千万箇所へ葉書を郵送するらしい。民間企業では異例の措置らしいが、全力を尽くして欲しいと思う。

●一月の二十九日は中国の春節、つまり旧正月である。これに前後して帰省や旅行などで移動する中国人は延べ二十億を超えるらしい。さすが中国と分かり易い。新聞によると昨年(2005年)、中国の国内自動車販売数は約五九二万台、日本は五八〇万台、遂に日本を抜いてアメリカに次ぐ世界二位の市場になってしまった。これは富裕層だけではなく中産階級がマイカーを持つようになったためらしいが分かり易い、さすが中国市場はすごい。私が初めて北京に行った十年前は、上り下りの通勤自転車で道を横切れないで長い時間待ったことを思い出す。

●中国の経済成長、国際社会での発言力を背景にアメリカでは中国語の学習熱が

高まっているらしい。高校一万四千校で中国語クラスを導入の希望校は二千四百、日本語希望は百七十五校とのこと。二十年前は日本語熱だったらしいが、関心は中国に変わったようである。間違いなく中国は世界の超大国になりつつあるようだ。これもわかり易いが十年後の世界、アジアは一体どのようになっていくのだろうか。私の想定範囲外であるが、日本のリーダーの皆さんには英断とタイミン  
グを逸しないで欲しいと思ったりする。

## 27・少し間違った感動かも (2006.2)

むかし、「横浜が帰った後は家の中をチェックせよ、必ず何か忘れ物がある」と言うことわざが私の田舎にあった。横浜とは私のことである。結婚後も電車の中にカバンや背広、熱海駅のチケット売り場に財布、ゴルフ練習場に時計、メガネの場合は飛行機の中、成田エックスプレス、成田からのバスの中とフルバージョンと言える。でも、これらの物は大体がその後戻ってきた。しかし、海外のホテルに忘れたジャンパーや差し歯は帰国後に気が付いたので、差し歯はゴミになりジャンパーはボーイの普段着になったかもしれない。先日テレビを観ていたら孫正義さんが出ていた、ほんとうに尊敬できるスゴイ人だと思う。

十六歳で単身渡米、在学中（十九歳）に七カ国語の音声付翻訳機（現在の電子辞書）を開発。結婚式の当日も翻訳機の調整に没頭し、初めて機器が動いた時は式の時間を二時間オーバー、式は流れてしまったらしい。とにかく集中力、集中すると訳が分からなくなるらしい、十五時間連続で会議をしたり、絵を描きだし気が付くと夜が明けている、会社に出社して気が付くと靴下を履いていないとか靴を履いていないこともあるらしい、そのために会社に靴下やベルトが常時置いてあるとのことである。凄い集中力だ！今日の孫氏が存在する裏話と言えるかもしれない。

一緒にテレビを観ていた妻が唐突に言った「分かった！あなたが物忘れっぼかったのは技術者だったからだね、きつと」・・・

何かを忘れるたびに怒られっぱなしの私としては、なんと優しい言葉なんだろうと感動してしまった。

## 28・バッジより仕事が大事 (2006.2)

昔、会社に入社した時、黒地に金色模様のある徽章（胸に着けるバッジ）を手にし、良い会社に入社することが出来たと心から喜んだ。これを付けることを誇りに思い、常に着用するようにとの人事指導により背広の時も、夏のワイシャツの時も胸につけていた。

関東では他の人が見ても何処の会社かほとんど知られていなかったが、関西では良く知られており、このバッジをつけていると周囲の人達の信頼と尊敬を自然に得られる様な気になったものだ。水戸黄門の印籠についている紋所のようなものである。私はこうゆう会社で、礼節献上、公明正大、産業報国の精神で社会に貢献すべく日夜励んでおり、決して怪しい者ではありません・・と言うわけだ。

しかし、勤務年数が多くなると共に付けたり付けなかったり、バッジを付けることにそれほど誇りも感じなく、また重要でなくなったような気がする。むしろ、日頃厳しく競合する業界の中でいかに実績をあげるかのほうが重要、かつ大きなことになり、人事部には悪いが自然にバッジへの思いが軽くなっていったように思う。国会議員の権威「特権」の象徴である金バッジは、1890年〔明治二十三年〕来の歴史だそうである。国会議員がバッジを付けているのは日本と韓国ぐらいで後進性を意味するという説もあるらしい。

話題になっていた国会議員互助年金も廃止ではなく温存になったようであるが・・金バッジは偉そうにしていると見られ恥ずかしいと、今廃止論が浮上しているらしいが、バッジは無くとも国民の目線になり胸を張っていい政治をやって欲しいと切に願う。

最近またこれでもかとはかりに談合問題、それに関わる天下り問題が新聞を賑わしているが、日本はいつになったらこの醜い呪縛から抜けられるのだろう。金バッジを気にしない決断力、実行力のある政治家次第のような気もする・・いいかげんに何とかならないものかねえ〜！

## 29・私はまだ大丈夫そう (2006.3)

中学時代、映画館に行くことは学校で厳禁であった。極たまに文部省推薦映画を先生に引率されて生徒全員で観に行くか、お盆に神社境内で行われる村の青年会が主催する映画を莫蔭を敷いて観る程度であった。しかし、映画が好きになってしまった私は隣の映画館に寒い時期はマントを頭からかぶり変装し、密かに観に行っていた。いろんなジャンルの映画を観る内にすっかり洋画ファンになってしまい、その後好きな映画や俳優の名前を覚えることに自己満足するようになっていた。それ以来、現在でも趣味の一つになっている。

テレビで「アクトアズ・スタジオ・インタビュー」と言うのがある。アクトアズスタジオのメンバーの一人であるジェームズ・リプトン氏が学生達の前で活躍中のスターにインタビューし、スターが学生の質問に自分の言葉で本音を話す番組でなかなか面白い。

最初に数人のスターの顔がバックグラウンドとして流れ番組が始まるが、先日久しぶりに観てスターの名前が出てこないでガックリした。最近、少し人の名前が出て来ないと思っていたが、この時ばかりは「私も遂に・ボ・・」と自信を失くした。

むかし、ボケの初期症状はどんな症状かと言う話を聞いたことがある。昨日何を食べたか思い出せない、二階に急ぎ駆け上がったが何しに来たのか考え込んで

しまう、雨戸を閉めるために窓を開け首を出したまま雨戸を閉め、痛てえ！ いろいろあるが、でもこれらはボケの初期症状ではないらしい。では、初期症状とは何か、

● 映画や音楽、食べ物などに何も感動しなくなった時

● 朝起きて今日の予定はどうなっているか考え、今日はああしよう、こうしようという計画できるのは正常。この計画が立てられなくなった時があぶない。

若い時よりは大分スターの名前や映画の題名が出てこなくなったが、昔聞いた初期症状の話信じ、これからも自信を持って生きたいを思う。

### 30・税務署にて (2006.3)

先日、神奈川県税務署に確定申告に行った。自分で申告するようになって数年が経つので慣れたものである。例年のように税務署からもらった手引きと国税庁のウェブサイトに載っている作成ソフトを使い完成させた後に車で税務署に向かった。駐車場は満車で順番を待っている車が五十メートル以上の列！ 動く気配が無い、一体提出が完了まで何時間かかるのだろう。

私は車列を横に見ながら走り過ぎ、百メートル先のチョット入り込んだ分なりにくい駐車場に入った。地元の人でないと知らないようで十分空いている・・・しかも二十分百円。税務署に入ると提出者の列は約十五メートル、女性が何か署員ともめていた。せっかく並んで提出窓口にとどり着いたのに、書類にチョットした不備があったため列を離れて修正しなければならなかったらしい。そのためまた最後列に並ばねばならない。こんなのおかしい！ 何とか優先的に受け付けて！ と言うわけである。「すみません、他のお客様が並んでおりますので・・・」と署員はさかんに頭を下げていた。

女性の気持ちも良く分かる気がする。提出後隣のホールを覗いてみると、大きなホールは人でいっぱい、申告書を署員の指導を受けながら作成している人達で、提出は簡単だが作成するのが大変と言うわけである。初めての人もいることだろう、初めてでないが電卓片手に作る人も多いのではないだろうか。一方パソコン使用だと必要事項を入力すれば自動的に計算され、提出書類が完成してしまう。やはり昨今、手際よく物事を終わらせるにはパソコンを駆使し、インターネットを活用する時代だと実感した。私の提出は二十分以内百円で呆気なく完了したが、駐車場の車列は相変わらず余り動いていないようだった。